

## 徒然なるままに その一

平成 30 年 10 月 28 日記

本ホームページの「ひげぐま先生のひとりごと」に書いたもので、本コーナーの趣旨に合うものを、一部修正してこちらにも掲載します。

2001 年 8 月 24 日に静岡第 1 テレビのニュース番組で取り上げられた、私達、NPO 静岡県教育フォーラムの活動をご覧になった一人のお母さんからお手紙を頂いた。小中学校時代に長く不登校を経験したものの、現在は公立高校に通っておりますお子様がいらっしゃるようで、その子が不登校の時の親としての長い苦悩の毎日のお話。そして、この 1 学期再び不登校になりかけたものの、夏休みの友達との交流で自分自身でそれを乗り越え、自分の力で手に入れた高校生活にもう一度自分の存在を見付けようとしている我が子を見てきて、こうして子ども達はいつかは自立出来るんだと、我が子を信じる決意のにじみ出た手紙だった。1 学期の我が子の様子を見て散々だった成績に目をつむり、夏休みを思い切り遊ばせたこのお母さんの対応に、私は感激した。お子様はそこで、中学校時代の友達も自分と同じように、高校に対する期待外れや思惑外れを感じながらも、新たに自分に合うものを探し求めて学校に通っていることを知り、自分も、と考えるに至ったという。素晴らしいお話である。

不登校を経験している子は、確かにみんなと違うということに苦しむ。でも、それは違う。みんな同じである。みんな同じように悩み苦しみながらも、その壁の高さが人によって違うから、それを乗り越える仕方やそれに要する時間が違うだけ。

17 歳の女子高校生からお手紙を頂いた。担任の先生に受験に有利と言われ、気乗りのしないまま生徒会役員を引き受けた。ところが、やってみるとその仕事は自分には決して負担にならず、むしろそれがために自己の存在感を得、充実した高校生活を送っている。しかし、それを羨む陰口が耳に入り、世渡り的な引き受け方故に、少し葛藤を感じているとのこと。

ある補導員の話である。同感である。

「”万引き”を 1 つのゲームのように一部の親たちは捉えているが、”窃盗”という立派な犯罪なんだ。その認識をしっかりと持つべきだ。」

「万引きしてしまったら、本人は勿論、親もそのお店の人に土下座をして謝りなさいよ。そうして犯罪意識を持たせなければ、万引きを絶つことは絶対できない。」

「勿論、非行は、お父さん、おかあさん、僕の方を向いてよっとうサインなんだよ。」

「子どもの前では、お父さんを、あるいはお母さんを、絶対に批判するな！」

「子どもの前では、お父さんを、あるいはお母さんを誉めなさいよ。やさしくいたわりなさいよ。」

「子どもの前では、絶対に夫婦喧嘩をするなよ。子どもはどっちに味方していいか分からなくなる。」

「子どもも親もどっちも感情的になってしまったら、子どもに手紙を書いてみなよ。お父さんの、あるいはお母さんの小さい頃から今までのことを。そうしたら、冷静になって話しかけられるし、冷静になってその話を聞けるもんだよ。」

小学生から大学生の皆さんにちょっと聞きたい。君たちは今ね、親に思いっきり甘えたいって思うことがある？・・・って言うのはね、ここんとこ色んな人達（大人達）と話すことがあって（勿論、そういうことはこの私にはここ数日に限ったことじゃないけどね）、今の親ってホント自分達自身のことばかりで、目の前にいる大事な子ども達と心から関わることがなおざりになっているんじゃないかなあ、なんて考えちゃったんだ。非行とか、いじめとか、キレるとか、そうじゃあくても、相も変わらず爆音をたて、信号を無視して商店街を暴走する行動、あるいは、店じまいしたガソリンスタンドの壁に（この藤枝では学校のブロック塀にも）訳の分からない文字を得意顔(?)に書きまくること、そういった現象を見聞きするに、物質的には有り余るほど満たされている現代故に、そういった行動に走る子ども達の心の中に渦巻いているフラストレーションの原因を考えるとね。やっぱり親の我々も親になる勉強が必要だよ。子ども達は、その依存心の裏返しの攻撃性を外部に向けるしか方法がないかもね。